

座光寺 19地区探訪⑬ 市場通り



大正10年(1921)当時の駅前付近の様子。家の前には桑畑が広がり、道に沿って石垣が延びている。左手に共信社の煙突が見える

2017.11
No.25
市場通り

座光寺一便

信州飯田

麻績の里

麻績の里 座光寺便 市場通り号 平成29年11月発行 ■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL 0265-122-1401

元善光寺駅周辺は古くは「古瀬(古瀬平)」、さらにその西側一帯は「市場」と呼ばれていました。大正12年に伊那電鉄・元善光寺駅が開業。また駅前道路の新設により、周囲の様相は一変します。外から移り住む人が増え、人口が急増したことから、「駅前」「中市場」「南市場」という新しい地区が誕生しました。これ以降「座光寺商店街」は著しく発展し、近隣に先駆けて商圈を形成しました。中市場はその後、現在の「市場通り」に名前を変えました。駅前・南市場の人口減少から、現在は市場通りとしてひとつの地区となっています。

麻績の里●座光寺便からのお知らせ

表参道↔座光寺～糸～ シードルプロジェクト進行中!!



これまでの信頼関係を糧に、交流の次のステップとして、現在「表参道↔座光寺～糸～シードルプロジェクト」が進行中です。まずは今年穫れたりんごを使って、来年5月にシードル(りんご酒)をつくり、6月に完成交流会を表参道を会場に開催する計画です。「原宿表参道と飯田市座光寺のりんごでシードルをつくる」を合言葉に、多くの区民と市民、キャットストリートの若者と飯田市座光寺の人、自然がつながり、息の長い交流へと発展していくことを期待しています。

座光寺便23号で、渋谷川遊歩道(通称・キャットストリート)をご紹介しました。
「街の一角にりんご並木をつくりたい」。飯田市を訪れ、りんごのある風景にふれた表参道の人々からそんな願いが寄せられ、2010年3月、表参道区民と飯田市座光寺市民の協働により、通りの一角にりんごの木が植えされました。その後りんごは丹念に育てられ、大きな実を結ぶまでに生長。原宿表参道と飯田市座光寺の住民間交流も進展しました。



渋谷区長(中央左)も参加して今年9月に行った収穫作業



ふるさとパック 秋から冬の味覚満載便 2,000円(送料別)

- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475) E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成30年1月20日
- お届け時期 平成30年2月上旬

※代金は商品到着後にお支払いください。



- 大正12年 3月18日 伊那電気鉄道元善光寺駅まで開通。
- 大正14年 8月15日 元善光寺民衆舞踊会(座光寺音頭)が結成される。
- 大正14年 10月 駅前通りが竣工し、新商店街が形成される。駅前広場に初めて菊人形が飾られる。
- 大正14年 座光寺商工会発足。同会の大看板が駅前に立てられる。
- 大正15年 衆楽園竣工。元善光寺土産として樂焼の焼き物がつくられる。
- 昭和3年 10月28日 御大典記念の衆楽園菊人形が開催される。
- 昭和4年 12月 元善光寺葵窯が創設され陶器の販売が行われる。
- 昭和12年 座光寺商工会で観光絵はがきを発行。



発電所の導水管

北本城を流れ下る本沢に沿って、一本の導水管が伸びています。これは記事中に紹介した発電所への導水管です。

発電所は2カ所あり、本沢の急傾斜を活かして戦前から発電事業が行われていました。発生した電気は精米の動力などに使われていたといいます。

この導水管は、座光寺小学校のすぐ下から沢沿いに、かなりの部分がそのまま残っています。口径は太く、使われている鉄も厚みがあります。よくこれだけの鉄製品が、戦時中の供出を免れ残っていたと思います。立派な地域の産業遺産といえるでしょう。



- 古瀬平の石垣**
表紙下写真に写っている石垣の一部が残っています。
- 発電所跡地**
川をまたいで小さな発電所があり、急峻な本沢の水を使って発電していました。当時の座光寺農協の施設で、昭和2年から操業していました。
- オリオン残照**
一刻者のおばさんが仕切っていた伝説のラーメン店。根強いファンがいました。玄関上に「オリオン」の文字がかすかに残っています。

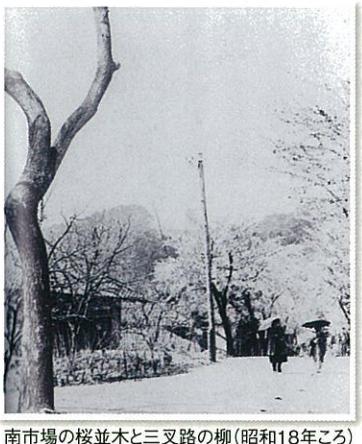
音頭に歌われた名物・名産

- 大正14年につくられた座光寺音頭に、「座光寺音頭に桜菊に饅頭葵焼」とあります。菊人形は大正14年伊始りました。興行拡大のために、菊人形館として「衆楽園」が建設され、毎秋大勢の人で賑わいました。
- 葵焼は地域の新しい産業として創出されたものです。さまざまな焼きものがつくられ、元善光寺土産として訪れた人々に人気でした。当時の主な商工業の変遷を、座光寺史から拾つてみます。

歩けば！が見えてくる 座光寺 19地区探訪⑬ 市場通り



一面桑畠だった地に交通の拠点が置かれ、一本の道が開通したことによって、市場通りは大きく変貌しました。表紙下の写真に煙突が写っている、製糸工場の「共信社」は、大正5年(1916)に創業しました。7年後の大正12年に、伊那電気鉄道が開通し元善光寺駅が開業します。さらに2年後の大正14年、駅から元善光寺参道までの道が新設されました。桜が植えられ、桜並木として広く知られるようになりました。



南市場の桜並木と三叉路の柳(昭和18年ころ)

座光寺商店街の賑わい